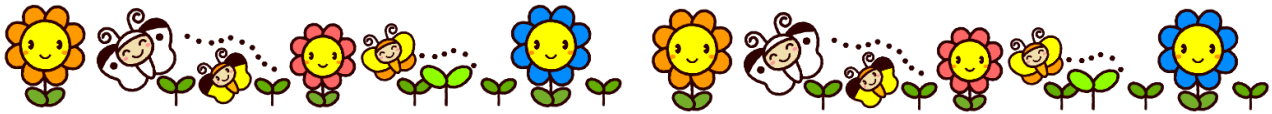


なんくる☆いぬくる

平良中学校
特別支援教育だより
No.2 令和5年6月

~Eazy inclusive education



台風襲来とともに始まった6月も終わりに近づきました。平良中の生徒や職員のみなさんからは、4月の緊張がようやく解れたような表情が見られます。新入生歓迎球技大会などの行事や規律ある日々の積み重ねを経て、生徒たちはリラックスした本来の姿を見せていることでしょうか。クラスに自分の居場所を見つけたり、安定した生活から新たな目標を見つけたり、前向きな姿勢であれば良いのですが、まだ前向きではない状態の生徒もいます。4月に見られた「とっておきの姿」とは違う様子を見せつつある生徒に、戸惑われている先生もいらっしゃるのではないのでしょうか。今回は「学習スタイル」について取り上げます。先生方の生徒理解や信頼関係作りの一助となることを願っています。

3つの学習スタイル

明確な線引きではなく、おおまかに3つの種類があります。2つ併せ持つ傾向もあります。

視覚型

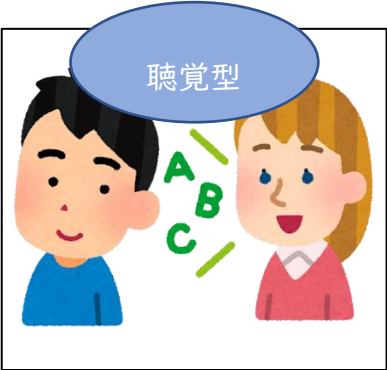


黒板やホワイトボードに描かれた絵のほか、表やグラフ、図表や地図などの視覚素材を使って説明された情報の処理が得意な学習スタイルです。視覚型の人には、書かれた文字を読む前に絵や写真の情報を取り取ることが多いほか、概念を素早く視覚化することができます。

学習のヒント

紙に書かれた文字、絵、写真を活用する。学習内容を簡単に文章にまとめる。内容を整理したり視覚的に分類したりする。

聴覚型

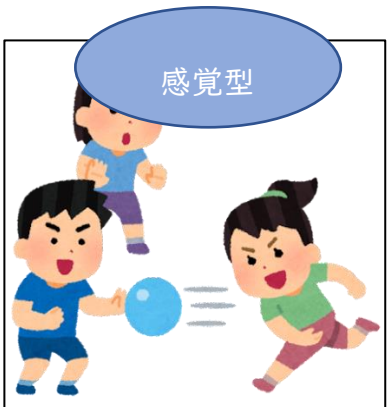


授業の説明や口頭でのプレゼンテーションなど、声に出して説明された情報の処理が得意な学習スタイルです。聴覚型の人には、他の人が話したことをすぐに思い出すことができるほか、複雑でわかりにくいと感じた話題について、詳しく説明してもらうことを好みます。

学習のヒント

音声を聞いたり、口頭で指示を受けたりする。繰り返し声に出して記憶する。相手と話し合って考えを深める。

感覚型



見たり聞いたりすることより、自分で実際に体験することを通じて情報を処理する学習スタイルです。感覚型の人には、実践形式で実際の物に触れたり感じたりすることを好みます。また、人から話を聞いたり何かで読んだりしたことより、自分でやったことの方がすぐに思い出せます。

学習のヒント

立ち上がったたり動き回ったり、体を動かして記憶や考えを整理しているため、ストレッチなどの時間をとる。他の人のサポートや、模倣。

授業の中で気になる子の学習スタイルはどうでしょうか？下記のチェックリストで確認してみましょう。

我々教師は「視覚型」が多いと言われています。板書やプリント、ノートに書き込むといった学習方法が主流なのは視覚型である所以とうなずけます。現在の授業の進め方は、「聴覚型」や「感覚型」の生徒たちへも有効な学習環境や進め方でしょうか？授業改善を求めるわけではありません。教師にもそれぞれの学習スタイルがあるからです。学力に伸び悩んでいる生徒に「あなたは〇〇型なのかもね？こんな学習の方法があるよ…。」と学習スタイルに気づかせたり、「私もあなたと同じ〇〇型傾向なんだよね。」とご自身の勉強法を伝えたりすることで、苦手意識の軽減や改善、自信の回復を図ることはできるでしょう。

学習スタイルチェックリスト

1 視覚型

- 単語や漢字は何度も書いて覚える。
- 講義や会議中のメモやノートをきっちりとる方だ。
- 相手の外見（顔、髪型、服装、持ち物など）を記憶している方だ。
- 文章で書かれたマニュアルがあると安心する。
- 本を読むことは好きな方だ。
- 静かなところで勉強するほうがはかどる。

チェックの数

個

2 聴覚型

- 本よりセミナーなどに参加したほうが理解。
- 相手の外見より話した内容を記憶している。
- 説明書を読むより人に聞いた方がPCなどの操作を覚えられる。
- どちらかというともメールより電話が好きだ。
- 記憶するときは、書くより声に出して繰り返す方だ。
- 音読すると理解が進む。

チェックの数

個

3 感覚型

- 説明書は見ないで、実際に触って動かしてみる（PCや携帯電話、家電など）
- 勉強などは体を動かしながらの方がはかどる。
- 音楽を聴きながら勉強などをすると集中できる。
- まずは自分で実際にやってみる。経験重視のタイプだ。
- 音楽を聴くと、自然に体が動く感じになる。
- 寝転びながら勉強したほうがはかどる。

チェックの数

個

チェックの数が多かったところがあなたの学習スタイルです。またはその傾向が強いということです。どれにあてはまっても優劣はありません。自分の特徴、生徒の特徴としてどう生かすのかを考えましょう。「人間社会」は得意なことが違う人たちの集まりなのです。自己理解を促すことが自己・他者理解につながり、様々な人間が協力し合い、支え合いながら生きていく共生社会の実現が訪れると良いですね。